

平成 25 年度年次報告

課題番号：7008

(1) 実施機関名：

気象庁

(2) 研究課題（または観測項目）名：

自己浮上式海底地震計観測による宮城県沖の地震活動

(3) 最も関連の深い建議の項目：

1. 地震・火山現象予測のための観測研究の推進

(1) 地震・火山現象のモニタリングシステムの高度化

イ. 地震発生・火山噴火の可能性の高い地域

(4) その他関連する建議の項目：

1. 地震・火山現象予測のための観測研究の推進

(1) 地震・火山現象のモニタリングシステムの高度化

ア. 日本列島域

(5) 本課題の 5 か年の到達目標：

想定宮城県沖地震の震源域及びその周辺において自己浮上式海底地震計による地震観測を行い、その海域で発生している地震活動を詳細に把握するとともに、精度の高い震源分布を求める。また、震源決定手法の改良・高度化も行う。

(6) 本課題の 5 か年計画の概要：

宮城県沖において 4 か月（2 か月 2 回）程度の自己浮上式海底地震計による地震観測を実施し、地震データを蓄積するとともに、検測・解析処理を行う。

(7) 計画期間中（平成 21 年度～25 年度）の成果の概要：

計画期間中は毎年 2 回程度の観測航海を行い、宮城県沖を中心に海底地震計による観測を行った。平成 25 年度は、5 月、11 月の 2 回の観測航海により、20 点の海底地震計について設置、回収作業を行い、2012 年 11 月から 2013 年 10 月にかけてのデータを取得した。

取得したデータについては、共同研究機関の東北大学等と連携して解析を進めており、これまでも、東北地方太平洋沖地震の余震の詳細な分布が得られている。また、2012 年 12 月 7 日に三陸沖の太平洋プレート内及びプレート境界でほぼ同時に発生した 2 つの地震について、海底地震計のデータを用いて精度の高い解析を進めている。

なお、仙台管区气象台では、共同研究機関の東北大学の協力を得、東北地方太平洋沖地震発生以前の 2008 年、2009 年、2010 年のデータを解析し、海底地震計のデータを含めた震源再計算結果を地震年報に掲載した。

(8) 平成 25 年度の成果に関連の深いもので、平成 25 年度に公表された主な成果物（論文・報告書等）：

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

気象庁

他機関との共同研究の有無：有

東北大学

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署等名：地震火山部管理課 地震調査連絡係長

電話：03-3212-8341（内線：4514）

e-mail：jmajishin_kanrika@met.kishou.go.jp

URL：http://www.jma.go.jp

(11) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：青木元

所属：気象庁地震火山部管理課